

「山陽小野田市ふるさと文化遺産」 を創設しました

【問い合わせ先】社会教育課（☎ 82-1205）

ふるさと文化遺産とは？

文化的財産（文化財や伝承）を含む、世代を超えて受け継がれ、地域の歴史や風土に根ざした、ストーリー性のある概念をふるさと文化遺産に登録します。地域や学校での郷土学習に利用するとともに、観光資源として活用し、郷土愛の醸成や交流人口の増加、市の知名度アップを図ります。

第1段として「寝太郎」と「竜王山」を登録しました。

指定文化財との違いは？

指定文化財は国や県、市が積極的に保護する対象として指定されている文化財です。ふるさと文化遺産は地域の財産として親しまれ、大切にされている文化的財産を再発見し、周知、活用することを目的に創設したものです。

「寝太郎」と「竜王山」の物語

詳しい物語の内容は、市ホームページに掲載しています。

Netarou
寝太郎

湿地帯だった「千町ヶ原」を瑞々しい水田に変え、村おこしを成し遂げたと伝えられる「寝太郎」。厚狭のまちでは、実在の人物であったかのように生活の中に息づいています。いつ誰の手によって事業が行われたか公的な記録は残っていませんが、この偉業に対する人々の感謝の気持ちが、寝太郎物語として語られるようになったのではないのでしょうか。今も寝太郎人気は衰えることなく、人々に親しまれています。

寝太郎が残したもの

厚狭地区では、今でも寝太郎が造ったとされる「大井手（堰）①」や「用水路②」が人々の暮らしを支えています。300年以上厚狭盆地の疎水として活用されてきた「大井手」は、寝太郎物語と相まって、厚狭のシンボルとなり、現在では「寝太郎堰」と呼ばれています。「大井手」から引き入れられた水路は、厚狭盆地をくまなく流れ、「千町ヶ原③」と呼ばれる美しい田園地帯を潤しています。

寝太郎への感謝

全国各地に伝わる寝太郎の民話と厚狭川の「大井手」や用水路が結びついたのは、江戸時代中期だと考えられています。それ以来、人々は寝太郎に感謝する気持ちを捧げてきました。1750年に広瀬地区の農民たちが建てた「寝太郎荒神社④」は、荒地を美田に変えた寝太郎に感謝を捧げたものです。1939年の大干ばつでは、「大井手」から水を引いた地区だけは豊作だったそうで、その驚きと感謝が「早魃記念碑⑤」に刻まれています。江戸時代、円応寺には寝太郎を祀った権現を安置する荒神堂がありました。現存していませんが、1928年に発見された「稻荷木像⑥」が、寝太郎のご神体ではないかと見られています。

